

令和5年度 第2回成田市公民館運営審議会 会議概要

1. 開催日時

令和6年3月26日（火） 午後2時から午後3時30分まで

2. 開催場所

成田市赤坂1丁目1番地3
成田市中央公民館 2階視聴覚室

3. 出席者

(委員)

木川義夫会長、麻生辰浩委員、高木麻由子委員、櫻井美恵子委員、
天野義夫委員、長澤成次委員

(成田市教育委員会)

関川教育長、保立教育部参事

(事務局)

大隅公民館長、小川主幹、寺里管理係長、田口主査

4. 議事

- (1) 令和5年度公民館主催事業の進捗状況及び令和6年度公民館主催事業について
- (2) 令和5年度公民館主要工事等の進捗状況及び令和6年度公民館主要工事等について
- (3) 答申「家庭教育支援事業の活性化について」の取り組み状況について
- (4) 第41回成田市公民館まつりの実績について

5. 議事（要旨）

【議事（1）について】

要旨：事務局から令和5年度公民館主催事業の進捗状況及び令和6年度公民館主催事業について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(高木委員)

青少年教育事業について、夏に集中している。私も小中学生の子供がいるが、春休みは宿題もなく、時間を持て余している。時期をずらしてみたいか。
「外国人のための日本語教室」がとても盛り上がっていると感じる。通年の開

催により、定期的に公民館に足を運んで、人に会うというのが、外国人にとってとても良いと思う。同じように、子供たちや子育て世代のお母さんたちも、通年を通して顔を合わせるなど、公民館に足を運ぶ機会があれば、安心して子育てや、子供たちの成長にも貢献できる。公民館がそういう場所になると思う。

(木川会長)

公民館としても、積極的な意見を頂いたので、取り入れられるものは、取り入れていただきたい。

(麻生委員)

公民館主催事業で、小中学校の家庭教育学級で申し込みがあったか。

(事務局)

小学校の家庭教育学級において「クリスマスリース作り教室」の講師を紹介した。

(天野委員)

大幅に参加者が少ない講座はあったのか。

(事務局)

開催時期によって少ないものもある。「SDGs 基礎講座」は応募が少なく、職員を参加させて実施した。人気がある講座との差が激しい。

(天野委員)

来年度は、定員いっぱいになるように考慮していただきたい。

(櫻井委員)

公民館主催事業は、中央公民館が主催するのか。下総公民館での開催がないが。

(事務局)

主催事業は、職員が企画・運営を行っている。下総公民館で開催した講座はないが、「なりた郷土史セミナー」の第1回目を下総公民館で開催し、講座終了後に下総歴史民俗資料館を見学した。

(木川会長)

一部の公民館に偏らず、さまざまな講座を実施していただきたい。

(長澤委員)

世代を超えてさまざまな事業を展開しているのはすばらしい。ニュースレターに掲載している「なりた冒険塾」について、学校との連携が非常に重要である。子供たちの募集はどのように行ったのか。

(事務局)

「広報なりた」への掲載や市公式 SNS での募集、各学校へチラシの配布を行った。

(長澤委員)

広報を行う上で問題や課題はあるのか。

(事務局)

概ね多くの方に募集を行っていると思われる。ただし、「広報なりた」は高齢者がよく見るが、若者はあまり見ていないと思われる。

【議事（2）について】

要旨：事務局から令和5年度公民館主要工事等の進捗状況及び令和6年度公民館主要工事等について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(天野委員)

受変電設備工事期間中は、公民館は使用できなくなるのか。

(事務局)

受変電設備改修工事の際は、全て電気が使えなくなってしまう。工事期間中は、申し訳ないが休館とさせて頂く。工事の日程については、「広報なりた」で周知する。

【議事（3）について】

要旨：事務局から答申「家庭教育支援事業の活性化について」の取り組み状況について説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行った。

(高木委員)

答申を踏まえ、改善・試みをしていただき、実際に利用された方が託児がすごく良かったとの事。この家庭教育支援事業の話も聞くことが多かった。特に託児は本当にありがたく、お母さんが学べる機会って、なかなか少なく、子どもと離れて学びに集中できる機会は、すごくありがたかった。家庭教育支援事業は、数回で1つの講座が多く、お母さんと子ども同士、ちょっと親しくなれて、その後も、交流が深まったりとか、学びを続けることができ、すごくいいきっかけだったとのことだった。あとは、家庭教育支援事業の中の、わらべうたと子育て航海術については、サークル側からの依頼というふうに聞いたが、公民館側から、子育てサークルに出向いて、活動の様子やサークルの方たちと実際に話す機会とかあったのか。

(事務局)

「わらべうた講座」については、昨年も実施した実績があることから、公民館側からサークルに声掛けをした。「子育て航海術」については、講師が「わらべうた講座」と同じ方で、講師から提案があり、公民館側が受け入れる形で実施した。

(高木委員)

公民館に子育て団体がいくつかあるが、答申をしたときにアンケートを添付したが、そういう方たちと交流を深めると、新しい講座とか、どういふのが必要かというのが分かって、広がってくると思う。

今、気になっている話題として、中学校の部活の地域移行だが、ちょうど息子が今度モデル授業の一つの部活動の対象となった。そういうのを見て、調べたり、興味があるが、やっぱり中学生たちも部活が地域移行となり、学校で部活をやる機会も減ってきて、友達同士の時間とか、部活がなくなる時間とかが増えてくるのではないかと、お母さん同士で危惧している。中学生向けの講座が、ここにはあまり無いと思う。中学生たちは、義務教育で一番難しく、部活が今までのようにできる時間が無いとなると、どこに行くのか、というときに公民館で何かあると、心の支えになるのかなと思うので、講座の中にそういうところも考慮していただきたいと思う。

(教育長)

部活の地域移行についてですが、今年度は、西中学校を会場として柔道の地域部活動、地域クラブ活動、地域クラブを行っている。ただし土曜、日曜だけである。来年度は、各中学校区で1部活動を地域に移行していこうと考

えており、実施するのは1部活だけ、土曜、日曜だけになる。なので、平日は、当面、学校で部活は実施する。ゆくゆくは、学校から部活動をなくして、すべて地域に移行していく考え方では進んでいる。高木委員から提案があったように、今後は中学生対象にした公民館での活動も入れていくのもよいと思う。学校の部活動は、決められた範囲の中から生徒が選んで、それに参加しているが、地域クラブは、もっと多種多様なクラブを作っていきたいと考えており、本当は子どもたちは違う活動をしたいのに、学校にないからこの部活動をやっているケースも結構あると思う。なので、子どもたちにアンケートをとって、どんな活動をしたいのかというのを、今、調査をしようとしているところである。子どもたち、学校の先生方、そして保護者の方にもアンケートをとろうというふうに計画をしている。

(保立副参事)

来年度、図書館の方でも、中学生を含めた高校生、20歳ぐらいまでの大学生ぐらいまでの若い世代を対象とした青少年向けのコーナーというものを設置する予定である。なかなかそういった世代、部活動なり学校なりが忙しく、図書館に足を運んでいただく機会が少ないという中で、図書館の書籍を始め、青少年、若い世代にもいろいろと意見を聞くというような機会も設け、そういったものを反映させながらコーナーの設置に向けて取り組んでいく。ぜひ、高木委員のお子さんや、友達の方にも、そういったことを広めていただき、図書館も若い人たちの居場所づくりということを目指していく。

(高木委員)

旧Twitterで、これからいろいろ情報発信をするのは良いと思う。息子の話だが、今、中3と中1で、長男が受験で、良く公民館の自習室を使っている。本当は9時までいるつもりで、夜食も買ってきたが、今日は5時までだったって言って帰ってきたことが何回かあった。公民館の規定には9時までって書いてあるので、そのつもりで来たけど、そうじゃなかった。そういう時に、今中高生はスマホも見られるので、今日は何時までというのを発信してもらえれば良いと思う。この「公民館だより」に自習室の紹介もあるので、こういうのを本当は小中学生の学校に配布してほしいが、こういうのもTwitterや成田市のLINEやFacebookとかにも載せてもらい、紙配布が難しいなら、そういうところに載せてもらっても良いと思う。公民館に置いてあるだけだと、公民館に来た人しか見ない、という気がして、もったいない内容だなと感じた。

(事務局)

公民館からの旧 Twitter での情報発信については、学校終わり、夕方、公民館の学習コーナーの利用を想定しており、その日の公民館の平館時間を、放課後の時間帯に合わせて発信をできるようにしていきたいと考えており、発信していきたいと思っている。また、公民館だよりについては、市のホームページには掲載をしておりますので電子データでは確認はできるが、先ほど言った、公民館から独自に発信できるようになれば、その辺もできるようになるのかなというふうに考えている。

(高木委員)

できれば、9時まで毎日開館してほしいが、予算の都合でできないのか。成田市公民館の設置には9時から9時が必要があると認めたときは時間を変更することができるのかいてあるが。

(事務局)

公民館の開館時間は、基本的には午前9時から午後9時までとなっている。夜にサークルの利用の予約が入っている場合は9時までとなっている。ただし5時以降の利用がない場合は、そのサークルのご利用が終わった時点での閉館となる。職員の配置などの問題もあり、9時までの利用がない場合でも、学習コーナーを開けると、職員の配置など問題があるため、申し訳ないが利用のある時間帯ということをお願いしている。

(木川会長)

運用上ということではどうか。条例に規定されている開館時間ではなくて運用上ということでは閉館時間を早めているという形でどうか。

(事務局)

補足になるが、中央公民館の場合は学習コーナー、下総公民館と大栄公民館に学習室がある。それ以外の公民館には学習室・学習コーナーがないが、部屋の予約が入っていない空き部屋がある場合には、他の公民館でも学習室として臨時的に開放するようになっているので、そういったことも、今回の公民館だよりの中でも触れている。

(天野委員)

この講座の内容とか見ると、一般はお年寄り、青少年は小学生むけの講座が多いように感じる。私の話をすると、私は学校出てから大田区に勤めてい

た。その頃は青年館とかで、地方から出てきた工場で働いている人たちが、いろいろサークル作って青年館で歌ったり、ダンスやったりして活動していた。そういう場が成田市は少ないと思う。今の時代は、大学出て就職してここに残って、今は楽しい遊びがほかにあると思うが、そういう面でいろいろ仲間作りしたり、歌ったりレクレーションサークル作って、子供たちにゲームや歌などを教える活動をしていた。そういう施設は、成田市では公民館にしかない。若者の集めるような公民館があるのだからそういうものも考えてはいかか。高齢者がやるような講座が多いので、今の若い人たちが来るようなものをアピールすれば活性化になると思う。

(櫻井委員)

公民館研究大会で聞いた話の中で、今やっぱり若者の担い手が少なくなっている。少子高齢化も伴い、そういう若者たちが普段、参加して活動しようという場はたくさんいろいろなところにあるが、それをやろうという先導者が公民館の職員がやるのか、市の職員がやるのかという問題も出てくる。もそういうような問題があると公民館運営に対し、どう把握して、どのような発信をしたらいいのかというような、これからの公民館の運営のあり方としては課題になっているというのが挙げられていた。

(事務局)

若い世代というか公民館はもちろん、子どもから高齢者の方まで幅広い方に使っていただきたいという考えはある。そういった中で、今、重点を置いているのは、子育て世帯に向けてやっている。もちろん幅広い世代に向けた講座の作り方というのも、とても重要であるというふうに認識している。

(麻生委員)

学校等の家庭教育学級との連携というところで、先ほどの質問で、今年度はクリスマスリースの家庭教育学級の申し込みがあったということで、まだまだ家庭教育学級がいっぱい使っているというわけではないと思う。令和6年度は前期・後期に分けてやるとのことだが、4月の後半に家庭教育学級の説明会があるので、家庭教育学級に特化した講座を公民館で作って、そこに家庭教育学級の担当が申し込みをしていくというような形。例えばクリスマスリース作りみたいなテーマがあり、そこにいくつかの小中学校の家庭教育学級が申し込むみたいな形をとれば、学校の家庭教育学級としてもやりやすいと思う。

(長澤委員)

答申に関わらせていただいたが、私もいろいろ他の公民館を見ているが、こうやって諮問を受け、公運審が答申を出し、家庭教育支援事業の活性化についてという答申を出していたが、こうやってその進捗状況をきちんと出されているというのは本当にすごいと思う。まさに諮問と答申の好循環というか、具体的な実践を通して、好循環が生まれているなというのを感じている。本当に公民館の努力もちろん、審議会委員の方も努力しているが公民館の非常にイニシアティブというか努力ってすごいなというふうに思い、大変感動した。

【議事（４）について】

要旨：事務局から第４１回成田市公民館まつりの実績について説明を行った。
その後、次のとおり質疑応答を行った。

(櫻井委員)

実行委員会における反省会での意見だが、コロナの関係で、そば打ち同好会が、コロナの関係で、そば打ちの実演のみで、試食がなかったのが、是非やっていただきたかった。来年度については、実施の方向で検討。ボランティアの参加者が少ない感じがあった。問題になったという点はなく、実際、４年ぶりに開催できたということは、非常に喜ばれていた。結果的にも数字が出ているが、よくここまでできたなというような感じで、皆さん喜んでいて。あまり問題点は特になかった、指摘されることもなかった。

6. 傍聴

傍聴者 1人